

Payap University

パヤップ大学

所在地
Chiang Mai 50000, Thailand
ホームページ: <http://www.payap.ac.th>

主な対象学部
外国語学部: 学部留学

沿革

タイ北部のチェンマイ市に所在するキリスト教系ミッションスクール。タイで最初に認可された私立大学であることを誇りにしている。その前身は19世紀に設立された修道院と1923年設立のママコーミック看護病院学校である。現在も看護系学部はチェンマイ市内中心部に近いケウ・ナラット (Kaew Narawat) キャンパスにある。本部およびその他の学部はメー・カオ (Mae Khao) キャンパスに置かれている。学生数は学部生が5,700名、大学院生約380名である。教員数は487名。学生数に対する教員数比率は、12:1である。

特色

本学の学生は国際学部にも所属し、欧米系の外国人学生と一緒に英語で授業を受けることになる。タイ語の授業も、外国人学生と一緒に第二外国語としてのタイ語を学習する。交換留学のため、パヤップ大学に納める授業料・施設費・寮費などは免除される(年間1名分)。パヤップ大学では外国人学生を含め全学生が制服着用を義務づけられている。制服購入代は自己負担となる。

宿泊

キャンパス内の寮に入る。二人部屋でシャワーとトイレをルームメイトとシェアする。

生活

パヤップ大学が所在するチェンマイ市はタイ北部では最大の都市であるが、人口は40万人程度とそれほど多くない。バンコクのような大都市とは異なった雰囲気を持った中規模都市である。市内の移動にはバス、タクシー、サムロー (人力車) などを使う。

条件

TOEFL (ITP) 500点またはTOEIC 585点以上。GPA 2.5以上。
第二外国語でタイ語を履修している事が望ましい。

留学時期

毎年8月から原則1年間。
秋学期: 8月初旬~12月、春学期: 1月~5月、夏学期: 6月~7月下旬。



一生に一度の経験

外国語学部英語コミュニケーション専攻 2015年留学 床井 健太

2015年の8月から10か月間、タイの北部チェンマイにあるパヤップ大学で交換留学として留学させていただきました。留学を無事に終え、今一番に思うことが留学先を単純にアメリカで決定せずにタイを選んだことは大正解だったということです。私の目標であった英語力の向上、そして第三言語の取得を不完全ではあるが達成し今後につながるような伸びしろを身につけられたことが学業面での大きな収穫だと思います。学業面以外にも感じたことがいくつかあります。

一つ目は挑戦することの大切さです。私は留学当初、人見知りな性格で自分から話しかけることが苦手なうえ、日本人留学生が全くなく、ものすごいホームシックに陥りました。英語学習の前に自分自身との戦

いが最初の困難でした。しかしこの困難がきっかけで自分自身と向き合うことができ、やらなければいけないこと、変わらなければいけないことを明確にできたのが大きな収穫だったと思います。その答えの一つは一日一日を無駄にしないことでした。授業が難しかったり友達の英語が聞き取れなかったりして壁に何度もぶつかることも多々ありました。でも一日一日を無駄にしないことを心がけることで、失敗を恐れずにチャレンジしたり、予習復習に励むことで勉学に励むことができました。英語だけでなくタイ語もタイ人の友達をたくさん作り積極的に会話することでまだ基礎ではあるものの日本人留学生で一番成長することができたと思います。自分自身と向き合い積極的に挑戦することで自分自身を成長させることができたと思います。

二つ目は当たり前のありがたさ、日本の豊かさを改めて実感しました。日本のトイレは清潔で電車は時刻通りに来るし、インフラ設備も高いので

日本での生活で苦勞することは全くありません。留学を通して普段日本で当たり前に感じていた豊かさがいかに素晴らしいかを感じることができました。

そして最後に感謝することの大切さを実感しました。この留学期間中先生方をはじめ、現地の方々、家族そして友達の支えがあったからこそ無事に終了することができたと思います。タイ人の方々はタイ語を流暢に話すことができなくてもとても親切に優しく接してくれます。行きつけのご飯屋さんでは無料でサービスしてくれたりタイ語を教えてくれたりなどとても親切でした。パヤップ大学の先生も授業中に行きづまっていると声をかけてくれたり、授業後にわかるまで個別に指導してくれたりしました。また留学生の自分たちのために旅行を計画してくれたり、授業以外でのサポートもしていただきました。クラスメイトのみんなも自分が困っていたら気にかけてくれたり、自分の基礎的な質問や発表などに耳を傾

けてくれて、とても過ごしやすい環境でした。特に自分のルームメイトはアメリカ人だったのですが、彼は一番自分を気にかけてくれ、文化が違う中自分の意見を聞いてくれ、一年間何の問題もなく生活を送ることができました。

この10か月間は学力だけでなく人間的にも成長した大きな10か月でした。人生のターニングポイントと言ってもいいくらい刺激的な期間でした。そして留学を通して英語に対する考え方が変わりました。留学を終えた今がスタート地点だと思います。2020年には東京オリンピックもあり就職活動もあります。そしてタイで培った英語力をどう活かしよう伸ばすかがこれからの目標だと思います。そしてほかの人にはない第三言語。これも同時に向上させ、自分自身の将来の武器になると思っています。この留学で得たことを忘れずに新たな目標へとトライしていきたいです。